



あいはら

2024. 4. 30
町田市立相原小学校
校長 百田 明弘
学校便り NO. 2



「相っ子学習」

開校 150 年目を迎える相原小学校の教育目標は、教室にも掲げられていますが「よく考える子」「なかよく助け合う子」「体を大切にする子」です。どれも大事なのですが、特に一つの「よく考える子」になってほしいと思っています。そのために国語で漢字を習ったり、算数で計算をしたりするだけでなく、相原小ならではの活動にも取り組んでいきます。

理科や社会などで畑や野菜のことで地域の方にお世話になったり、生活科や総合的な学習の時間で地域の方をゲストティーチャーにして何かを教えてもらったりする活動があります。今までも、取り組んできたことですが、相原に長く住んでいる方や働いている方、野菜や自然、生きもの、食べもの、お店や建物、それから歴史、お祭りやイベントなど、

相原小で「相原のひと、もの、ことを通して学ぶ活動」を「相っ子学習」と名付けました。

相原小では栽培活動や林業体験など地域の力を借りて、学習に取り組んできました。今年度は「体験活動＝学習・学び」になっているのかを、児童と一緒に考えながら取り組むよう教職員にも児童にも伝えていきます。慶應大の鹿毛教授によると、

『生成 AI の登場で、学校教育で目指すべき方向として、体験がより重要になる。体験には、直接体験(五感で認識する本物体験)と間接体験(ネットなどの情報に基づく疑似体験)の2種類がある。ここで注目したいのは、「心が動く」という「人の強み」である。それにより「知性」の働きが活性化し、「やりたい」という意欲につながるからである。「心が動く」とは、「人間の知性」で言えば「感性」の働きに当たる。具体的には、直感的に「？」や「！」が浮かび、そこから「調べてみたい」といった意欲のスイッチがオンになる。心が動きやすいのは、直接体験の方であるに違いない。しかし、留意しておきたいのは、体験と意欲に関してである。何でも体験すれば、「心が動く」というわけではない。そこそが、子どもの実態をよく知る教師の腕の見せどころである。(一部省略)』

相原小学校でも、子どもの知性が働くような授業づくりに取り組んで参ります。そんな「相っ子学習」の一つとして「相原小かるた」＝「相原小のよいところ五七五」に全学年で取り組んでいます。これは開校 150 周年記念の企画でもあり、11月に地域の方にも発表したいと思っています。

さて、「よく考える」ということは教科書や先生から教わるだけでなく、自分から「どうしてなのか」「もしかして」「？」「！」というように考えることです。この活動には答えはありません。児童自身が創っていきます。知識といわれることは今の時代、スマホで検索すれば簡単に答えが出てきます。そうではなく、まず考えて、それから「自分はこう考えたけど、先生はどう思う？」とか「友達にあなたはと思う？」とか、「予想してみたら調べてみる」ということができることを目指します。体験から気付いたことや当たり前と思っていたことも、きっとそこには何か知らなかった理由、別な考えがあるはずです。

相原小学校ものがたり (あいはら～今昔～) 150年の軌跡を伝えるミニコーナー

「相原尋常小学校」。現在の地に明治 42 年 6 月平家建 4 教室と 2 階建(事務室・裁縫室・標本室)と教員住宅を最初に建設。明治 43 年青木正太郎氏より石門が寄付されました。(花崗岩の柱は今も正門に建ち、116 年もの間登下校する児童を見守っています。)その後児童が増加し、大正 3 年 1910 円の予算で 2 教室を増築。大正の後半になると、高等科が併設され、「相原尋常高等小学校」となり、2 教室と 2 階建て教員室及び教員住宅の移転改築が行われました。【相原小学校創立 100 周年記念誌より】



🎉開校 150 周年記念 T シャツについて🎉 「今年度予定の行事(運動会・集会・式典等)で着用する T シャツを教材として購入していただく予定です。購入方法、金額等は改めてお知らせいたします。ご理解・ご協力よろしくお願いします。